



'70 CHEVROLET CHEVELLE SS BALDWIN MOTION PHASE II 454(ERTL 1:18)

イエニコ、バーガーときたら、この名前も出さないわけには……

ニューヨーク州ロングアイランドのホールドウィン・ジョンソンとまた、独自にモディファイしたハイパフォーマンスカーを数に誇り出したことで知られる正統なディーラーの2つ、具体的には87年から74年までホールドウィン・ジョンソンと称するモデルをばらばらして販売した。ここで紹介しているのは70年型30シエラSSをベースに作られた1台で、カムベットの2Lを装着させるような大型のカウル・インダクション・フードとサイド・マウント・エキゾーストが特徴、モーターは484cuiW (L56) をベースに、500hpでパワーアップされた。



'69 CHEVROLET CHEVELLE YENKO/SC 427(SUPER CAR COLLECTIBLES 1:18)

イエニコはカマロだけではありません。

イエニコはカマロ型シエラ、同年のレジェンダ・モータースに譲ってはいえ、シエラに搭載された最もHOTなパワーユニットは375hpの388cuiW8だった。しかも、イエニコはカマロ同様、L72をベースにパワーアップした427モーターをインストールしたのである。エンジン・フードにはやはり同じように独自のグラフィックが施かれており印象的だ。



'69 CHEVROLET NOVA YENKO/SC 427(SUPER CAR COLLECTIBLES 1:18)

イエニコ・ノバもまた“勝利の方程式”を端的に示す1台。

イエニコはカマロ、シエラのみならず、なんとコンパクトボディのノバにまで強力な427モーターをスワップし、モンスター・パワーのストリート・ストリップを作り上げてしまった。ドン・イエニコがここまで427にこだわるのは、誰かがすでに302Aプロダクション・レーズで427cuiW8770のコンパクトをドライブしていたからなのだが、それをノバに移植したらどんなクルマになってしまうのか……想像しただけでワクワクしてしまう。ちなみにこのモデルは他にイエニコ・デュースとも呼ばれているが、このデュースはシボレーの2を意味するものだ。

'66 PONTIAC GTO "ROYAL BOBCAT"(CLASSIC METAL WORKS 1:24)

密かに421トライブパワーが搭載されていたとかいいたいか。

マッスルカーの話題についてはいくつかの話題があり、NASCAR戦を目前として生産された65年型クワイスター300とするのが最も有力だが、64年型のポンティアックGTOという車名もある。確かに、本来フルサイズ・スウィッチャー・クーペに搭載される大排気量のV8をデュアル・サイスにインストールしてしまう。という発想はそれ自身がであり、狂人はあのジョン・デロリアンだった。さて、ユース・ウィルソンという名義で、別のロイヤル・ボブキャットでは、独自のパワーアップを遂行して最終的にレース活動をした正統なディーラーだ。ここで紹介する66年型GTOは“ロイヤル・ボブキャット”という名前がつけられていた。一般に搭載されていたGTOのネットストリートバージョンには388cuiWトリプル・キャブレター仕様を搭載されていたのだが、このロイヤル・ボブキャットにはさらにビッグでストロークをオカシナ月の421cuiW8トライブパワーがインストールされたのだという。なお、一部によると、この421トライブパワー搭載モデルは、CARPDRIVERが行ったテストのために搭載用に作られたものとされている。



COPOカマロなら、このディーラーもお忘れなく。

チーム・バーガー率いるミンガン・ボウのシボレー・ハイパフォーマンス・ディーラーがNASCARに参戦したドラッグレースカーがこちら。ベースは69年型カマロSS 427 COPO、カウル・インダクション・フードにホッカー・ストライプといったストック仕様の上に、レースカーならではの0000年スタックアップが施され、60年代らしい雰囲気を演出している。ホイールはレーサー・887000で、当時のドラッグマシンはこのアイテムを採集したのが非常に多い。



'69 CHEVROLET CAMARO "BERGER CHEVROLET"(GMP 1:18)



'69 CHEVROLET CAMARO Z28(HIGHWAY 61 1:18)

“ウルトラ” レアではありませんので念のため。

こちらは69年型カマロZ28、スペシャル・ハイパフォーマンス・パッケージは、SOGA・ランダムに参戦するためのゼロゼロがランダムにラインナップされた。外観では白のレーシング・ストライプが大きな特徴だ。エンジンフードの下にはSOGAの421cuiW8にチューンされた302cuiW8の最終版2000ccのモーターが搭載されていた。生産台数は約1万台あるが、“ウルトラ”レアは思い通りの、希少かつ人気の高いマッスルカーであるのは間違いのないところだろう。



'69 CHEVROLET CAMARO Z10 INDY COUPE(HIGHWAY 61 1:18)

69年インディ500ベーカー・レプリカのクーペ仕様車。

カマロ69年型、70年型に続いて2台目となるインディ500ベーカーに模したモデルだ。これを記念してシボレーはレプリカ・モデルを企画した。ベースカーと全く同じ仕様となる。全体的にハイパー・オレンジのストライプを施した484cuiW8コンバーチブルが21台と明はれたが、同時にクーペ・バージョンもリリースされ、それがこのZ10である。生産台数は200~300台としか記録されていないが、スーパーレアなマッスルカーであることは間違いない。



'70 1/2 CHEVROLET CAMARO Z28(FRANKLIN MINT 1:18)

そろそろ第2世代もいっときますか。

70年に生産されたZ28のR5パッケージ。この度はSOGAのレジェンダが改正になり、4モロゲンションカーは、ボディが変わらなければベースカーと排気量が同じでなくてもOKとなったことで、作例のZ28は14100X148インチの388cuiW871が搭載された。メカニカル・バルブ・アフターを採集し、14.0:1の圧縮比で最高出力300hpを叩き出したこのユニットは、歴代のシボレー・モータース・コレクションの中でも3000ccと最大出力を誇る。フランクリン・ミントのディテールは真実で、ミル・サンズ・ブルームのボディカラーとブラック・レーシング・ストライプが相手をコントラストがなんとも美しい。